



越川 哲也 社長

塚本 能交 会頭

塚本会頭が行く
**会員さん、
 こんにちは!**

Vol.19
 会員訪問レポート



**資源循環社会を目指し、
 ゴミを“資源”に変えていく!**

使用済み食用油をリサイクルしたバイオディーゼル燃料の開発 製造に取り組む株式会社レポインターナショナルを訪問し、代表取締役の越川哲也さんにお話を伺いました。(訪問日：1月22日)

同社は廃食用油から独自技術で環境にやさしいバイオディーゼル燃料(以下:バイオ燃料)を製造しています。2002年、京都市バスやこみ収集車へのバイオ燃料製造設備導入に大きく貢献したことで事業を拡大し、現在では国内シェアトップまで成長しましたが、こみまでは試行錯誤の連続でした。

きっかけは自動車レースに携わっていた越川さんに、京都大学の教授からバイオ燃料実用化の協力依頼が寄せられたこと。越川さんはボランティアで活動していたバイオ燃料の研究を本格化するため1999年に会社を設立しました。創業から18期連続赤字にも諦めずに挑み続けてバイオ燃料の需要が高い海外に基盤を築き、昨年10月には東京



京都で集めた廃食用油を、資源として京都に還元!地産地消!

証券取引所「TOYO PRO Market」への上場を果たしました。脱炭素の機運が高まる近年は、国内初の航空機向けバイオ燃料の供給プロジェクトに参画しています。

供給量と価格を一定に保つためには廃食用油の安定的な調達が重要で、廃食用油の引き取りからリサイクル、供給までを社内で一貫して行います。全国約2万5千軒から引き取る廃食用油は成分が異なるため均質化が難しく、高品質な燃料にリサイクルする独自技術は国内外から高く評価されています。

これまでも、これからも常に挑戦あるのみ!

日本で認知度がまだ低いバイオ燃料の普及にあたり、京都市に性能や安全性の基準となる品質規格制定を提案しました。また品質向上のための技術開発にも積極的で多数の特許を取得、自動車の耐久レースや世界一過酷なラリーにもバイオ燃料で参戦し、実績を重ねています。

「ゴミを資源に変え、地域に循環させる。この挑戦を京都から発信し続けたい」と意気込む越川さんのこれからにも注目です。

「心と技術で地球を守る」、このビジョンが越川社長の原動力。京都企業のオンリーワン技術が、世界の環境保護につながることを期待しています。



バイオ燃料を生産する京都工場・日量30,000Lの生産能力



株式会社レポインターナショナル
 京都市下京区綾小路通烏丸東入竹屋之町
 252-1四条烏丸アーバンライフビル101
 ☎075-353-2277
<https://revo-international.co.jp/>